

～日本の大学受験にも役立つ！～

## 海外進学のための英語試験対策

海外進学を考える場合、やはり欠かすことのできないのが英語力です。出願時にはほとんどの大学で、各大学が要件に挙げている英語力テストのスコアを提出する必要があります。実用英語検定（英検）も、アメリカの2年制大学では多く採用されていますが、採用している国や大学の数を考慮すると、TOEFL iBT®またはIELTS™スコアの取得を推奨します。なお、TEAPは、主に日本の高校生を対象とした大学入試を想定して開発されたテストで、日本における「大学教育レベルにふさわしい英語力」を測ることを目的としている点が、TOEFLやIELTSと異なります。

これらの試験は、日本でも入試に採用する大学が増え、また交換留学や派遣留学の学内選考でも必要となることが多いため、海外進学に限らず、試験対策をしておくとい良いでしょう。また、対策をすることで英語力の強化に役立ちます。国別必要スコアの目安については、2022年3月の掲載記事「海外大学出願に必要な英語力」も参考にご覧ください。

[https://global10.tokyo/cms/wp-content/uploads/2022/03/English\\_Proficiency\\_Required\\_to\\_Apply\\_to\\_Overseas\\_Universities.pdf](https://global10.tokyo/cms/wp-content/uploads/2022/03/English_Proficiency_Required_to_Apply_to_Overseas_Universities.pdf)

CEFR	実用英語検定	TOEFL iBT	IELTS	TEAP
C2			8.5-9.0	
C1	1級 (2600-3299)	95-120	7.0-8.0	375-400
B2	準1級～1級 (2300-2599)	72-94	5.5-6.5	309-374
B1	2級～準1級 (1950-2299)	42-71	4.0-5.0	225-308
A2	準2級～2級 (1700-1949)			135-224
A1	3級 (1400-1699)			

出典：【各資格・検定試験とCEFRとの対照表】

[【https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/30/03/\\_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610\\_1.pdf】](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf)

(閲覧日 2022年7月28日)

こちらの表は、高校生の皆さんに馴染みのある実用英語検定と、TOEFL iBT®や IELTS™、TEAP の各試験を、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment というヨーロッパ各語学に共通で外国語としての言語運用能力を共通評価枠) に照らし合わせたもので、これによって大まかなスコア換算ができます。例えば、英検 2 級を持っている人なら、TOEFL iBT®では 42 点から 71 点、IELTS™では 4.0 から 5.0 が目安になります。皆さんもこの表を使って、各試験の目標スコアを設定してみましょう。参考書を選ぶ際にも、レベルを判断するための目標スコアが書いてあることがほとんどです。

なお、表中では、例えば英検 2 級に相当する TOEFL iBT®スコアは 42~71 と、点数の幅がかなり広がっています。これは、受験回数による慣れや、リスニングやスピーキングなど一般的に日本人が苦手とするセクション、また自分が苦手とするセクションを対策し、トレーニングしているかどうかによって差が出るためです。

ここからは、代表的な英語試験について簡単にご説明します。TOEFL iBT®は、英語を母国語としない国の人たちが、英語圏の大学など高等教育機関で学ぶだけの語学力があるかどうかを「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能について測定する試験で、約 3 時間、試験会場に置かれたパソコンを使って行います。大学生活に求められる英語力を測定するテストなので、大学の講義や論文などアカデミックな題材が中心になります。

IELTS™も、英語を母国語としない人たちの英語 4 技能を測定するためのテストですが、TOEFL iBT®と同様に高等教育機関で勉強するための英語力を測る Academic Module と、移住や就労のための英語力テストとされる General Module の 2 種類があり、大学進学の場合は、Academic Module で必要なスコアを取る必要があります。また、TOEFL iBT®と異なり、受験方法もペーパー型とパソコン型の 2 種類から選択できます。

どちらもアカデミックな英語力を測るテストですが、それぞれに特徴がありますので、自分がより力を発揮できるのはどちらのテストか、それぞれのウェブサイトにあるトライアルテストを受けてみるのもよいでしょう。いずれも、基本となるのは文法力や語彙力です。文法は高校で学んでいる内容が基本中の基本です。学校の教科書や、大学受験用の参考書でしっかりと理解しておくことが一番です。語彙力、単語については、教科書には出てこない単語もたくさんあるため、TOEFL iBT®あるいは IELTS™の Reading セクション用問題集を解きながら、知らない単語を書き出して自分専用の単語帳を作って覚えていくなど、自分にとって取り組みやすい方法で力を付けていきましょう。

以下に記載する各試験の公式ウェブサイトには、試験の詳細に加え、サンプル問題、前述したトライアルテスト、またトライアルテストの結果と解説を一定期間復習できるコンテンツや勉強方法のヒント等も掲載しているので、チェックしてみてください。

【TOEFL iBT®】 <https://www.toefl-ibt.jp/>

- ・ 構成・特徴・受験料 [https://www.toefl-ibt.jp/test\\_takers/toefl\\_ibt/advantages.html](https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/toefl_ibt/advantages.html)
- ・ 無料模擬テスト <https://www.ets.org/jp/toefl/test-takers/ibt/prepare/tests>

【IELTS™】 <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts>

- ・ 試験について <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts/which-test>
- ・ 無料試験対策 <https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts/prepare/free-practice>